

技術委員会

1 概要

- 1.1 技術委員会はこれまで一貫して、ばね技能者向けの人材育成事業を軸に諸活動を実施してきており、その中心となるのは金属ばね製造技能士の育成強化である。
年度毎に合格者数の目標を設定し、目標達成に向けて技能士試験合格支援教育を毎年実施している。平成19年度は201名(目標160名以上)の技能士が誕生し、初回の昭和60年度からの累計取得者数は、3,580名となった。
- 1.2 教育用VTR“明日への飛躍”をベースにしたDVDの制作
総務委員会と共同で今年度末を目標に一般・新人向けの教育用教材とするDVDを制作するとして検討してきたが、創立60周年記念事業WGのDVD制作SCに引き継がれ完成した。内容は「過去から未来・主要品目・主要工程・職人技など」で15分に収録。
- 1.3 従来の線ばねソフトの改訂
BANEXを「CD/windows版BANEX」として改訂するよう東京理科大学中曽根研究室に委託していた。内容・使い勝手等監修し、平成19年8月に500部制作、実費相当で販売を開始した。(販売実績：273 東部支部：106 西部支部：138 その他：29)
- 1.4 優良ばね製造技能者表彰制度の改定
前年度からの継続活動。ばね技能者の技能向上、意識高揚に応えられるよう表彰制度の見直しを図った。規定上金属熱処理を金属ばね製造(線ばね、薄板ばね)と同等の資格に格上げした。また、取得資格構成により金賞と銀賞の2賞にした。
平成19年度の実賞者数は43名(金賞6名 銀賞37名)。
制度開始の昭和60年度からの累計取得者は332名となった。
- 1.5 知的財産勉強会の発足
ばね工業会としても、知的財産に対してもっと知る必要があるとのことから、勉強会を発足させ今年度は2回の講習会を開催した。
- 1.6 技能検定推進会議の発足
従来、技能検定部会は技術委員会の下部組織として活動してきたが、試験問題の選定と試験を監督する立場である技能検定部会と、合格率を上げる活動をしている技術委員会とは、将来不測の事態が起きる可能性があるとの思いで、技術委員会と区別した委員会を発足させた。
- 1.7 日本ばね学会編纂の丸善「ばね4版」について、技術委員会委員による査読を行い、編纂委員会へ結果を提示した。
- 1.8 ばね学会との技術連絡会開催
 - ・線ばねの低温焼きなましの最適条件等の研究を依頼した。
 - ・FEM解析講習会への支援を要請した。
- 1.9 委員会としての今後の取り組みテーマを抽出した
 - ・「技能グランプリ」の開催に向けての調査検討。
 - ・「日本ばねの歴史」の改訂出版(創立60周年記念事業WG初会議にて提案を引き継ぐ。)

2. 技術委員会等開催実績

日時・開催場所	議案
第1回 9月27日 虎ノ門パストラル	副委員長及び委員交替 知的財産勉強会発足の件 技能検定推進会議発足の件 技能検定推進会議発足による規程類の整備 各支部委員会実施状況報告
第2回 12月6日 大阪弥生会館	平成19年度技能検定公示及び受検者数情報 優良ばね製造技能者表彰制度の件 優良ばね製造技能者表彰規程案審議 記念品について 技能グランプリについて
第3回 2月22日 日本工業大学 レクチャールーム	優良ばね製造技能者表彰規程最終案の件 優良ばね製造技能者表彰規程最終案 記念品(メダル・バッジ) 2. 技能グランプリについて 3. 各支部委員会実施状況報告 平成19年度実績と20年度計画
第1回知的財産研究会 6月8日 航空会館	講演会(受講者数:27名) 講師 特許庁総務部規格調査課長 木原美武 氏 講演題名:「産業財産権を巡るわが国の現状と課題」
第2回知的財産研究会 7月5日 日発東京分館	講演会(受講者数:21名) 講師 S&I インターナショナル 代表 井口雅文 氏 講演題名:「東南アジアの知的財産事情」
見学会 2月22日 日本工業大学 工業技術博物館	わが国産業の発展に貢献した工作機械等250台以上の機械を 種類別、製造年代順に展示。 工作機械の約7割が動態保存されている。参加者13名
ばね学会技術連絡会 2月7日 ばね工業会会議室	1. 前回議事録確認 2. 委員会活動報告(ばね学会) 3. ばね学会の運営方針について(ばね学会) 4. Materials for Springs 刊行のお知らせ(ばね学会) 5. 丸善「ばね」4版 目次(ばね学会) 6. 2007年度第5回機能規格部会議事録(標準化) 7. 技術委員会委員要望列記(技術委)